

令和5年度 1学期終業式

令和5年7月20日

改めまして、みなさん、おはようございます。

令和5年度も3分の1が終わり、今日、第1学期の終業式を迎えることになりました。この間、みなさんは、学習に学校行事にクラブ活動に頑張って取り組んでくれたと思います。

先ほど、表彰伝達を行いました。多くの仲間が活躍し、その成果を残してくれました。本当によく頑張ってくれたと思います。

また、この夏休み、近畿大会や全国大会に出場するみなさん、日頃の成果を存分に発揮してきてほしいと思います。

この1学期を振り返ると、校外学習については、1年生は県内、2年生・3年生は県外で実施、球技大会については全校一斉で実施するなど、ほとんどの行事をコロナ以前のように行うことができました。学校に活気が戻ってきたと感じています。ただ、『コロナの前は』ではなく、コロナ禍で学んだことをどう生かしていくか、みなさんとともに考えていきたいと思っています。

さて、始業式に、当たり前前を日々当たり前前に積み重ねていくことが、自己実現につながり、なれる最高の自分になるための近道になるが、それは簡単そうで難しい。でも、目的意識をもって取り組むことで、満足度・幸福度が高まり、継続する力ややり抜く力につながるというお話をしました。

みなさん、目の前にあることを楽しんで全力で取り組み、うまくできないことがあっても、工夫して再度やってみる。目標をもって取り組み、今の努力は結果につながると思って、この1学期を過ごしましたか？

そして、何よりも、お互いに認め合い、困ったときに支え合うことができましたか？

人間関係はこじれることがあります。ゲーテは『若き日のウェルテルの悩み』の中で主人公ウェルテルに「世の中のいざこざの原因になるのは、奸策や悪意よりも、むしろ誤解や怠慢だね」と言わせています。いざこざの原因を探っていくと、どちらかに悪意があった場合より、どちらかがうっかりコミュニケーションを怠けてしまったことによって起こってしまうことが多いと言うことです。

また、ギリシア神話にも、ゼウスが英雄ペレウスと女神テティスの結婚式に不和の女神エリスを呼ばなかったことから、エリスが激怒し、トロイ戦争の原因を作ったというものがああります。ゼウスは、彼女が来ると何か面倒なことが起こりそうだからやめておこうくらいの気持ちだったのかもしれませんが。なんとと言っても不和の女神ですから。でも、彼女が不快にならないような理由をつけて「ごめんなさい」ということを伝えていれば、エリスの激怒もなかったかもしれません。明らかに、ゼウスの対応が丁寧ではなかったということが原因ですよね。エリスがどんなことをしたかは調べてみてください。

これは、私たちにも言えることで、「言わなくてもわかってもらえる」というのは幻想で、誤解が生じないように丁寧に言葉で伝えることが大切です。もちろん、自分の考えや、やろうとしていることを人に伝えることは難しいことです。でも、伝えて考えを共有することで広がることはたくさんあります。

だからこそ、考えていることを整理し、わかりやすく言葉にして、伝えること、そして何よりも、相手の話をじっくり聞き、それを整理し理解する力を磨いてほしいと思います。是非、この夏休み、読書をしたり、校内の特別講義や校外の研修、クラブ活動、地域等の

活動に参加したりして、視野を広くして、考える力やコミュニケーション能力を高めてもらいたいと思います。

さて、3年生のみなさん、希望する進路の実現に向け本当に大切な時期になります。焦らず、目標をしっかりとって自分を信じて邁進してください。

1年生、2年生のみなさん、夏休みしかできないこと、新しいことに積極的に挑戦してください。

新型コロナウイルス感染症もまだまだ安心できる状態ではありませんが、2学期の始業式、なら百年会館で元気なみなさんにお会いできることを願って、1学期終業式の式辞といたします。